

自己点検・自己評価報告

2026年度（令和8年度）

2025年（令和7年）10月1日～2026年（令和8年）年9月30日

フマニタス日本語学校

開設者 荻野修平

（運営法人：合同会社荻野企画管理）

学校自己点検・評価

機関名 **フマニタス日本語学校** （定員80名）

所在地 茨城県水戸市城南2-11-15

代表者 荻野 修平

校 長 松永 武

主任教員 和知 優太

事務統括 中島 恒一郎

点検・評価シート							点検・評価のエビデンス				
1. 理念・教育目標					2025年9月		2026年9月				
理念	実践的な教育環境を創造し、正確な情報交換と協働ができる人物を育成する。								2026年において建学の精神を明記することになった。本校の理念については開設者の①実用にかなう日本語教育②正確なコミュニケーション能力と協調性の涵養③自走できる能力の育成を骨格としている。教育目標は、それを受けて具体化された。		
教育目標	①実用的な日本語能力の養成：実際のコミュニケーションと情報交換に役立つ日本語スキルを向上させます。 ②連携とスキルの向上：他者と協力して課題を遂行する力を養成します。 ③自走できる学習姿勢の促進：主体的に学び、学習戦略を発展させる力を育てます。										
1.1	理念、教育目標が社会の要請に合致していることを確認できている。				A	B	C	教育機関としての責務を自覚し、多様な共生社会の理解と協調を推進するとした考え方に修正を行った。			
1.2	理念、教育目標が教職員及び学生に周知されている。				A	B	C				
総評	開校して2年を迎える。学生の学業向上、生活支援など、より具体的な経験と実践を積み、日々改善試みている。「建学の精神」を教育の現場に落とし込み、理念と目標をより深く具体的に実感できるものとなってきた。										
2. 学校運営（告示基準・情報共有、法令遵守）					2025年9月		2026年9月				
2.1	日本語教育機関の告示基準に適合していることを年1回以上確認している。				A	B	C	A	B	C	実施している。

2.2	校長、主任教員、専任教員、事務統括、事務職員の職務内容及び責任と権限が定められ、かつ、教職員間で周知されている。	A	B	C	A	B	C	職務所掌により職務と分担及び責任の所在が明確である。
2.3	管理、運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営が効果を上げている。	A	B	C	A	B	C	各規定の文章化がすすみ、それに従って行動する。
2.4	予算編成が適切になされ、明確なルールによって執行されている。	A	B	C	A	B	C	予算が策定され、それに従っている。
2.5	短期及び中長期目標が示され、教職員間で共有されている。	A	B	C	A	B	C	半期ごとの教職員会議において反省と改善、目標設定を行い、実施、共有している。
2.6	学校運営・教育活動に必要な情報を共有する仕組みがあり、機能している。	A	B	C	A	B	C	教職員会議により共有されている。
2.7	業務の見直し、効率的な運営の検討が定期的かつ組織的に行われている。	A	B	C	A	B	C	日々改善が加えられ、合理的かつ効果的な判断が下された。
2.8	授業や生活に関する学生の要望や相談について、担当者が明示され、適切に対応している。	A	B	C	A	B	C	生活指導員（事務職員）の増員により、医療対応、役所・銀行対応も含め、きめ細やかな対応がされている。授業終了後の相談も受け付け、心身のケアにそれぞれの教職員があたっている。
2.9	関係省庁への届出、報告を遅滞なく行っている。	A	B	C	A	B	C	実施している。
総評	開校時に作成された職務所掌によって職務が分担され、各々責任をもって実施している。しかしながら、具体的な細則について文章化や掲示を実施すべきと考えている。教職員会議が定期的に開催され、情報の共有は行われている。今後、告示基準適合点検リストを作成したい。							
3. 情報公開		2025年9月			2026年9月			
3.1	設置者、教育内容、定員、進路等の情報をHP等で公開している。	A	B	C	A	B	C	実施している。
3.2	募集要項、納付金に関する情報を公開している。	A	B	C	A	B	C	公開している。
3.3	志願者・経費支弁者等に、十分理解できる言語での情報提供を行っている。	A	B	C	A	B	C	英文のみであるが、確実性を担保しているので、友好と考えている。今後多言語対応も考慮する。
3.4	情報が十分に整理され公開されており、必要な情報がどこにあるか分かりやすく示されている。	A	B	C	A	B	C	実施している。
3.5	公開されている情報は、常に最新の内容に更新されている。	A	B	C	A	B	C	リアルタイムとは言えないが、即対応実施をしている。

総評	ホームページでは日本語と英語による学校情報を中心に公開している。比較的単純な構成なので情報への到達は容易。またフェイスブックでは学生の活動やイベントなどを発信し、学校の雰囲気や学生の息づかいを感じることができる。									
4. 入学者の募集と選考		2025年9月			2026年9月					
4.1	教育目標に合致した募集計画を立案し、募集地域や対象者を定めて募集活動を行っている。	A	B	C	A	B	C	教職員間の情報共有を会議を通し実施している。エージェントとの情報交換も含め、募集計画を立てている。		
4.2	海外の募集代理人と、最新かつ正確な情報を共有している。	A	B	C	A	B	C	実施している。		
4.3	海外の募集代理人の適切性を確認し、その募集活動を具体的な情報により把握している。	A	B	C	A	B	C	実施している。		
4.4	在籍するクラスが、入学志願者のニーズと合致することを確認できている。	A	B	C	A	B	C	個々の面談により状況を把握し、フィードバックさせている。面談及びテストによって確認に努めている。		
4.5	入学者選考基準が明示され、適切な手続きで選考している。	A	B	C	A	B	C	正常に実施している。		
4.6	志願者の情報を把握し、提出された根拠資料の正当性を確認できている。	A	B	C	A	B	C	エージェントの情報が正しいとは限らないが、面談を通してその信ぴょう性を極力確認している。		
総評	事務局長をはじめとする事務スタッフ・教職員は、入管事務及び海外窓口との密接な情報交換と交渉により、徐々に選考精度が高まっている。しかしながら新しいエージェントや事務対応の水準に疑問が生じることもあり、慎重に対応する必要がある。また、学生のキャンセルの対応も今後の課題である。									
5. 教育活動（計画、実施、検証）		2025年9月			2026年9月					
5.1	学生の日本語能力をPTで判定し、適正なクラス編成を行っている。	A	B	C	A	B	C	入学時に全学生に対してプレイスメントテスト（PT）を実施し、それを基にクラス編成を行っている。		
5.2	学期の学習内容を含むシラバスを学生に開示している。	A	B	C	A	B	C	毎学期の初めにオリエンテーションを行い、その中で各学期の学習内容、評価方法を示している。		

5.3	学生の熟達度を、特定の試験のみでなく「日本語教育の参照枠」に位置づけて測定する試みを行っている。	A	B	C	A	B	C	期末試験では言語知識を問うものだけでなく「読解（読むこと）」「聴解（聞くこと）」「作文（書くこと）」「会話（話すこと（やり取り））」の試験も行い測定している。その他、授業中に「作文（書くこと）」や「スピーチ等（話すこと（発表））」を多く取り入れ、それぞれ評価している。
5.4	学習成績の判定基準及び方法が予め告示されている。また、判定結果を的確に学生に伝えている。	A	B	C	A	B	C	学期ごとにオリエンテーションを行い、その中で学習成績の判定基準及び方法を示している。また、学期末にその学期の成績表（判定結果表）を一人ずつ紙媒体で配布している。
5.5	出欠簿を備え正確に記録している。教育活動の振り返り、改善に活かせる形式で授業記録を残し、記録内容を関係教員間で共有している。	A	B	C	A	B	C	毎時間、出席簿をつけている。加えて、学生は授業終了後に1日の授業振り返りをし、シートにまとめている。また、授業担当教職員は、毎日各クラスの授業記録報告書を作成し、教員全体へ共有している。
5.6	学生からの評価も含む、多方向的な評価システムが導入されている。	A	B	C	A	B	C	教職員による評価に加え、学生自身の振り返り評価、学生同士の評価（ピア評価）も行っている。
5.7	学生からの評価が教育内容や方法などの改善、教員の資質能力向上の取り組みに反映されている。	A	B	C	A	B	C	学生自身の振り返りや試験結果を踏まえた上での改善を行っている。また、毎学期末に学生が回答する担当教職員ごとの評価アンケートを実施しており、評価アンケートの結果は各教職員へ共有している。
5.8	教育活動の検証について、実施の有無や頻度の確認だけでなく、実際の効果を確認できる評価システムになっている。	A	B	C	A	B	C	毎学期ごとに期末試験を行い評価している。その他、学生自身の振り返り評価、学生同士の評価（ピア評価）も行っている。
総評	すべての記録が残され、さらに教職員間での情報共有が行われ、おおよそ完成度の高い教育プログラムを実施している。新任教員の指導等も行われ、統一したカリキュラムが実施されていると考える。							
6. 教職員育成（教育力向上、支援力強化、授業評価）		2025年9月		2026年9月				

6.1	新任教員・初任教員を対象とし、明示された「必要な資質能力」を向上させることを目的とした研修を実施している。	A	B	C	A	B	C	学内でのOJT形式での研修の実施、学外の研修会への参加推奨をしている。
6.2	所属する教職員を対象に、授業の振り返りの機会を設け、情報の共有や成果の確認を行っている。	A	B	C	A	B	C	授業担当教職員は、毎日各クラスの授業記録報告書（授業の振り返りを含む）を作成し、教員全体へ共有している。また、各種試験の結果や成果物等も共有している。
6.3	授業の自己評価に加え、教員相互評価、学生からの評価も含む多方向的な評価システムを導入している。	A	B	C	A	B	C	教職員は毎日の授業記録報告書作成で授業の自己評価をしているのに加え、時折、教職員間で授業を見学し相互評価を行っている。また、毎学期末に学生が回答する担当教職員ごとの評価アンケートを実施しており、評価アンケートの結果は各教職員へ共有している。
6.4	各種研修会の情報を収集し、参加を奨励している。	A	B	C	A	B	C	学内で研修会の情報を収集し、研修の募集要項等を各教職員に周知して、参加を奨励している。また、費用が必要なものについては学校が負担している。
総評	自己評価システムが改良され徐々にその効果が感じられるところである。この自己点検評価報告書の改良も現在進行中あり、次年度から新しい自己評価点検システムが導入予定である。							
7. 学生支援（日本社会の理解、進路指導、安全指導、在留管理）		2025年9月		2026年9月				
7.1	生活指導担当者の職務内容及び責任と権限を明確にしている。また、業務分担が学生及び教職員に周知されている。	A	B	C	A	B	C	職務所掌により職務と分担及び責任の所在が明確である。職員増員による事務処理の効率化が図られている。
7.2	留学生活に関するガイダンスを定期的実施し、学生の理解度とガイダンスの成果を確認している。	A	B	C	A	B	C	専任生活指導担当者（兼通訳）による継続的な支援を行っている。
7.3	進路指導担当者が特定され、各学生の希望する進路を把握している。	A	B	C	A	B	C	教務担当者による支援の実施と把握。
7.4	進学に関する資料や情報を収集し、学生が閲覧できるように整えている。	A	B	C	A	B	C	同上
7.5	卒業後の進路を把握するシステムが整備されている。	A	B	C	A	B	C	現在のところ未実施。進学先との情報交換が必要。
7.6	健康、衛生面について管理する体制を整えている。	A	B	C	A	B	C	健康診断と日々の医療支援を行っている。

7.7	重篤な疾病や障害、交通事故の対応、感染症発生時の措置を定めている。	A	B	C	A	B	C	法律に従って対応をしているが、実際いくつかの事案が発生し、その都度、対応をしながら経験を積む状態である。今後起こりうるケースに対し、具体的な対応、マニュアルを文書化していきたい。
7.8	火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法を定め、避難訓練を定期的に実施している。	A	B	C	A	B	C	緊急時の対応について文書化している。今後掲示や具体的な指示や指導を考えていきたい。
7.9	必要な場合には、母語対応を手配する体制が整っている。	A	B	C	A	B	C	国籍が多様で英語だけでは対応しきれないばあい、エージェント及び水戸在住の外国人通訳ボランティアの支援を受けて対応している。
7.10	出入国在留管理（責任者）及び（担当者）が特定され、その職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	A	B	C	A	B	C	定めている。
7.11	担当者は、入管法上の留意点について適切な情報を取得し、学生への伝達・指導を定期的に行っている。	A	B	C	A	B	C	実施している。
7.12	在留上の問題がある学生に対し、支援計画を立て個別指導を行っている。	A	B	C	A	B	C	違法性や日本社会での協調性を阻害する行動や迷惑行為など、経験的に情報が蓄積されてきた。今後さらに想定される問題について議論すべきと考えている。
7.13	不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者を発生させない取組みを定期的に行っている。	A	B	C	A	B	C	警察への通報、入管への相談など、努力している。
総評	1年を経過して、いろいろな問題が発生し、その都度法律と地域の慣例や習慣に則して対処してきた。緊急時の対応については、マニュアルを印刷し、掲示している。さらに、言語対応を行い、掲示周知に努めたい。							
8. 施設・設備（語学学習への適正、安全配慮）		2025年9月			2026年9月			
8.1	教室は十分な照度があり、換気が整っている。	A	B	C	A	B	C	整っている。
8.2	語学学習に必要な十分な遮音性が保たれている。	A	B	C	A	B	C	整っている。
8.3	視聴覚機材やICTを活用できる教育用機器及び設備が整っている。	A	B	C	A	B	C	整っている。
8.4	授業時間外に自習できるスペース及びリソースを提供している。	A	B	C	A	B	C	整っている。
8.5	法令上必要な設備を整えている。	A	B	C	A	B	C	整っている。

8.6	廊下、階段等は緊急時の避難に危険のない形状である。	A	B	C	A	B	C	整っている。
総評	設置者として、基準に合った設備、環境を整えるように努力している。劣化に伴い、更新をどのようにしていくか予算を勘案し、時代にあった設備や環境に追いついていくことが必要である。また、安定した経営により、修繕費等の積み立てを計画している。							
9. 地域・社会貢献								
9.1	日本語教育機関の資源及び施設を利用した地域・社会貢献を行っている。	A	B	C	A	B	C	まだその段階に至っていないが、本年度、国際交流協会の日本語支援事業に参加する機会を得た。
9.2	茨城県留学生親善大使など、学生ボランティア活動を紹介し支援している。	A	B	C	A	B	C	近隣の大学との共同ボランティア参加の機会を得るべき交渉中である。学生の要望に応じて社会参加のサポートを考えていきたい。
総評	地域との交流や接触をととして異文化に対する理解を進めていきたい。教育機関として、日本社会の慣習や道徳、法律遵守を基本に、積極的な社会活動への呼びかけを行っていききたい。共感と理解に能動的な態度で接していききたいと思う。							
10. 財務								
10.1	財務状況は中長期的に安定している。	A	B	C	A	B	C	安定している。
10.2	予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている。	A	B	C	A	B	C	保たれている。
10.3	学生納付金について、クーリングオフ・返還・返金などが学則どおりに行われている。	A	B	C	A	B	C	行われている。
10.4	適正な会計監査が実施されている。	A	B	C	A	B	C	税理士等専門家の指導を受けいている。
総評	開設2年度を迎え経験を積み、充実した教育環境を継続していきたい。学納金等はすべて収支記録を開示できるような事務処理を行っている。財務諸表は、法人と学校部分について明確に分けられている。							

報告者 荻野修平（フマニタス日本語学校・開設者）

評価について

■小項目ごとに点検・評価し、結果はA,B,Cで記載してください。

A：「達成されている」もしくは、「適合している」

B：「一部未達成」だが、年度内には達成もしくは適合が見込まれる

C：「未達成」もしくは、「適合していない」